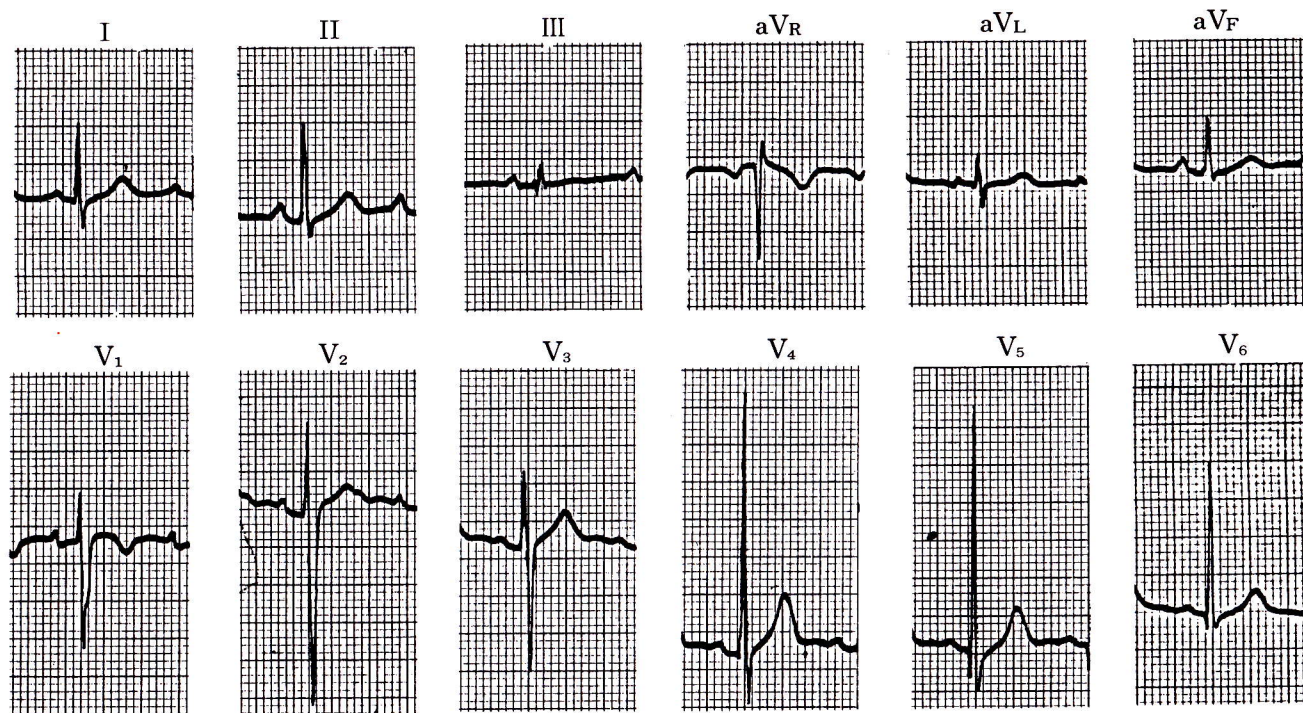


## 症例 20

●13歳 男

● 検診で心雑音を指摘され来院。



- 1) V<sub>1</sub>で2相性P波を認めるが異常か.
- 2) V<sub>5</sub>で高いR波を認めるが異常か.

V<sub>1</sub>で2相性P波を認めるが陽性部分、陰性部分とも小さく、右心性P波、左心性P波のいずれの基準も満足しない。V<sub>s</sub>のR波は32mm、V<sub>s</sub>のR波とV<sub>1</sub>のS波の和は46mmと成人の左室肥大基準

は満足しているが、本例は13歳の学童であり、学童の左室肥大基準は満足しない。13歳の学童としては正常の心電図である。

## MEMO

## 〈小児の心電図〉

小児の心電図は年齢とともに変化する。乳幼児期には右室成分が優性で右型を示すが（電気軸は垂直～右軸傾向に、右側胸部誘導に高いR波）、成長するにしたがって左室成分が強くなり、思春期頃にはほぼ成人と変わらない心電図となる。この心臓の成長過程に加え、小児では胸郭が薄く、心臓と電極の距離が近い（QRS

波の振幅が大きくなる）ことなどもあって、成人の肥大基準をそのまま適用することはできない。小児の心室肥大基準（巻末付表参照）を用いればよい。P波に関しては確立された基準がなく、成人における診断基準をそのまま用いればよい。またPQ時間、QRS幅なども成人に比し短くなるため注意しなければならない。